

「新鮮 なっ! とくしま大使プログラム ～藍染と手打ちうどん体験～」に参加しました

中国四国農政局 四国東部農地防災事務所

平成 25 年 11 月 2 日（土）、徳島県農林水産部もうかるブランド推進課が実施する「新鮮 なっ! とくしま大使プログラム」に四国東部農地防災事務所から 1 名、那賀川農地防災事業所から 1 名参加し、徳島県立城西高等学校で、徳島県の伝統文化である藍染と手打ちうどんの体験をしました。

（1）「新鮮 なっ! とくしま大使プログラム」とは？

県外からの転勤等で徳島県内に在住している人を対象に、収穫体験等を通して県産農林水産物やその生産現場について理解を深めてもらい、県外に転居後も徳島県産農林水産物を応援・PR する「新鮮 なっ! とくしま大使」として育成するためのプログラムです。

所定のプログラムを修了すると「新鮮 なっ! とくしま大使」に認定されます。今回の藍染と手打ちうどん体験は、今年度のプログラム第 4 回目になります。

（2）体験内容

この日はお子さん 1 名を含む総勢 10 名が参加し、徳島県立城西高等学校の職員及び生徒の皆さんから藍染の方法やうどんの打ち方等を教えていただきました。徳島県立城西高等学校には農業科学科、生産技術科、植物活用科、食品科学科、総合学科の 5 学科があり、さまざまなニーズにこたえた教育プログラムが用意されています。今回は、植物活用科と食品科学科のみなさんに案内や指導をしていただきました。

まずは、高校内の圃場等を案内していただきました。城西高校では、イネをはじめとして、花卉類や野菜・果物類まで、様々な品種を育てています。校内には販売所もあり、校内でとれた作物を学生自ら販売しています。

次に藍染体験をさせていただきました。城西高校では、藍の栽培から、すくもの製造、藍建て、藍染までの一連の作業をすべて行っています。今回は、藍の圃場見学、すくもの発酵場の見学、白いハンカチの藍染をしました。藍染は藍染め液が酸化作用により藍色になることを利用しているため、藍染め液に染めるものを浸して、それを空気にさらすことを繰り返すことで色が藍色に染まります。そのため、ハンカチを液に浸した後、しっかりと広げないとうまく染まらず、濃い色に染め上げるのは相当難しいように感じました。藍染め液は、爪や肌まで染めてしまうため、ゴム手袋を付けて藍染を行いました。そのゴム手袋も最後には青くなっており、藍染め液の着色力に驚きました。藍染師の方の中には、素手で染める方も多く、その方たちは手が真っ青になっているそうです。

最後に、うどん打ち体験を行いました。前日に学生が生地を作ってくれていて、私たちはその生地にこしが出るように足で踏み、麺棒で生地をのばして、包丁で切るまでの工程を体験しました。生地を均等にのばすのはとても難しく、皆さん苦労されていましたが、自分で打ったうどんを食べるのはおいしいと皆さん喜んでいました。



藍の花を見学



すくもは独特のにおいがします



学生が丁寧に藍染を教えてくださいました



みんなで仲良く藍染



生地をのばすのは大変



ゆでる時は豪快です



集合写真

(3) 地域貢献とのリンク

吉野川下流域は県下最大、西日本でも有数の農業生産地帯であり、地域で生産されるレンコンやかんしょ、ニンジン等は、その多くが京阪神地方に出荷され、徳島ブランドとして注目されています。藍染は徳島県の誇る伝統文化であり、現在県を挙げて藍の6次産業化に向けた取り組みを進めています。

吉野川下流域農地防災事業では、生活排水の流入等で農業用水の水質が悪化したことから、きれいな吉野川の水を農地に届けるべくパイプライン等の設置工事を進めています。しかし、受益者にとってはきれいな水が届くことがゴールではなく、そのことで生産性やブランド価値を高め、農業経営の安定につながることを望んでいます。

県外から来た職員が、「新鮮 なっ！とくしま大使」として受益地をはじめとした徳島県産農産物に対する理解を深め、機会をとらえてPRするとともに、県外へ異動後も継続的に県産農林水産物を応援していくことで、地域貢献につなげたいと思います。